

「2017 開幕前 サポーターとの意見交換会」 議事録

日 時：2017年2月20(月)19:00~20:30

場 所：大分銀行ドーム 地下1階406会議室

出 席：代表取締役 榎 徹

フットボール事業本部 本部長 小澤 正風

フットボール事業本部 強化部長 西山 哲平

代表取締役 榎 徹

【開会あいさつ】

皆さまこんばんは。本日はお忙しいなかお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。昨年はJ3で優勝し、今季再びJ2で闘うことができます。これも多くの方に支えていただいたおかげだと考えております。スポンサー、経済界、そして何よりもJ3に落ちたにもかかわらずホームには1試合平均して7,700人の方が応援していただき、選手の背中を押してくださったサポーターの皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。そして嬉しいことに選手も昨年はフェアプレー賞をいただきましたことをご報告いたします。

シーズン開幕前にこの意見交換会を開催する目的ですが、2017シーズンのクラブ、チームの方針・見通しをご説明して、皆さんからご意見をいただき、よりよいトリニータをつくっていきましょうというためであります。本日はよろしく願いいたします。

【経営状況について】

平成28年2月から平成29年1月期の決算について、当初1,000万円ほどの利益を見込んでおりましたが、大きく上振れした着地になると見込んでいます。経営再建という点からみるとひとつ前進したと考えています。しかし、再建途中であることに変わりはありませんので、足元を固めながら今後も堅実経営を念頭に置いていきたいと思っております。

【クラブの方針・見通しについて】

少し大きな話になるのですが、クラブの意義についてお話しいたします。トリニータが大分にあるのはなぜかと最近よく考えます。会社の理念は「サッカーを通じて大分の活力に貢献する」ということです。例えば、週末は大銀ドームにトリニータの試合を見に行くことが生活の習慣となる。トリニータの試合を見て育った子供が大きくなってスポーツをする。トリニータが苦戦をしても最後まで走り続ける姿が見ている人に感動を与える。大分を離れた人がトリニータを見て大分を思い出し、帰省しようというきっかけになる。このようなことで大分の元気に役立ってくれば、トリニータが大分にある意義があるのではないかと考えております。昨年の平均観客数は約7,700人ですが、これを20,000人にまで増やしたいと思っております。これだけ多くの人が集まる場所は大分にはなかなかありません。人が集まればお金が動き、大分の経済が活性化することも考えられます。

今シーズンは、次の5年、10年を決する大事な年と位置付けております。今述べたような夢を実現するためにも5年でJ1に定着できるようなチームにならなければいけない、その基礎をつくる年だと考えています。

今シーズンのスローガンは「初志貫徹」としました。昨シーズンは創設時代に立ち返り、一から出直す意味を込め「原点回帰」としましたが、今シーズンはその志をしっかり保ちながらも、行動は一步一步足元を見ながら進んでいこうと考えております。

着実に足元を見ながらといいましたが、少し背伸びをしないと進歩や拡大再生産にはなりません。これは皆さんの満足度を上げながら、少しでも売り上げを伸ばしていこうというものです。少しではありますが、リスクを負って規模を拡大する、あるいは新しい事業にも飛び込んでいくというような考えをもっています。去年が7～8億の売上規模ですが、それを10億にし、いずれは15億、20億にしていかなければJ1を狙うという話にはなってきません。

そのために組織改正をしました。チームが強くなるためにはフロントが強くなる必要があります。営業部門は対象を個人、地域、法人と区分し、大きくひとまとめにして営業推進本部としました。総務、運営は管理本部としてまとめ、広報、経営改革は社長直轄としました。また、トップチーム、アカデミー、スクールをひとまとめにし、トリニータのサッカーを一貫性のあるものにしようとフットボール事業本部としました。

風通しのいい会社にするためには、情報共有と各部門での議論が必要です。そして何よりもコミュニケーションが大切だと思います。毎朝、朝礼と掃除を行っており、「みんなに共有してもらおう事」、「今自分が思っていること」などを社員に喋ってもらいます。そうすることで、コミュニケーションがとれ、情報共有が出来ると考えています。掃除も当然全員で行っています。

また、フロントと監督、強化、現場とのコミュニケーションもしっかりとっていきたい。42試合を7クールにわけ、6試合毎に話し合いを行い、早めに対策を練っていききたいと思えます。

【クラブの目標について】

売上を伸ばすためには、チケットは原則有料とし、無料招待は行わないつもりです。そのためにも皆様に喜んでいただけるイベント等を提供していきたいと思っています。

クラブとしては、5年後にはJ1に定着するようなチームにしたい。そのための一里塚として基礎をしっかり固める。観客は最終的には15,000人から20,000人にしたいと思っておりますが、今年は平均9,000人を集めたいと思っております。こちらも出来るだけ上積みして10,000人の大台に乗ればいいなと考えています。

また、地域活動も充実させます。大分市だけでなく他の地域、特に小さな規模のお祭りやイベントにも参加して選手を派遣していきたいと思っております。というのも、100人規模のイベントですと「〇〇選手を見た」となりますが、10人規模になると「〇〇選手と会った」となります。そういう気持ちを大事にしながら参加していきたいと思っていま

す。

トップチームについてですが、今シーズンの目標は勝ち点45を早く勝ち取ることです。勝ち点45を取ればまずJ3に落ちないだろうと考えております。そのうえで勝ち点を積み上げ、目標を上を持っていきたい。最終的には一桁。そして何とかプレーオフに参加出来れば一番いいなと考えています。

そして今シーズンから中継がDAZNに変わりました。そのおかげでJ2の配分金も1億円から1億5千万円に増額しました。年配の方にはネット配信によるスマホ、タブレット、PCでの視聴ということで使い勝手が良くないとは思いますが、テレビで見える方法もありますので、ご不明な点がありましたらクラブまでお電話ください。一長一短あるようですが、徐々に改善されてきておりますので是非ご加入ください。

繰り返しになりますが、今年の目標としてはまずは勝ち点45を積み上げる。そして出来るだけ多く上積みをしていく。クラブとしては9,000人~10,000人の平均観客を集めるということです。監督の言葉を借りますと「最大値」を発揮して、5年後10年後に繋がる1年にしたいと思っていますので、よろしく願います。

フットボール事業本部本部長 小澤 正風

【フットボール事業本部について】

こんばんは。フットボール事業本部の小澤と申します。今回の組織改正に伴いフットボール事業本部が立ち上がりました。5年後10年後のトリニータを考えて、トップチームを含めたアカデミー組織をしっかりと確立して成長させていく必要があると考えております。トップチームを頂点としてU-18、U-15、U-15宇佐、U-12、レディース、普及の各組織をしっかりと成長させてトップチームにいかにも多くの大分の子供達を昇格させていくことが我々の目標です。大事なことはトップチームの目指すサッカースタイルを共有するという事です。どの世代にも「全員でハードワークをし、躍動感のあるアグレッシブなサッカー」というトップチームの目指しているサッカーと同じコンセプトを持って進めていくことが大事だと思っています。このコンセプトを各カテゴリーの監督・コーチと話し合いながら常に共有していくというのが狙いです。

今年のテーマの一つに「育成のスピードをあげる」というのがありますが、これはいい選手がいれば一つ上のカテゴリーでプレーの経験をさせるという考えです。昨年はトップチームの練習にU-18の選手が参加し経験を積むことができました。これと同じようにU-18の練習にU-15の選手を参加させるなど一つ上のカテゴリーで練習や試合の経験をさせることで、選手が課題やヒントを見つけ、自分のチームに戻った時に活かすことが出来るのかなと思っています。当然、体が出来ていない小学生を中学生の練習に参加させて怪我をさせることはあってはならないので、そこはしっかり注意しながら見極めていきたいと思えます。

現在、アカデミー出身の昇格選手が21名おります。その中で10名の選手が、2017

年シーズントップチームで活動していく選手です。江頭選手がレンタル中なので含まれておりませんが、トップチーム30名のうち10名がアカデミー出身の選手となっております。このアカデミー出身の選手を増やし、将来的にはチームの50%くらいにしていきたいというのが目標であります。その中でも、佐藤昂洋選手、姫野宥弥選手、吉平翼選手、岸田翔平選手はU-12から所属しており、坂井大将選手、岩田智輝選手の2名に関してはU-15から所属して活躍しております。時間は多少かかると思うのですが、こういった選手を多く輩出していくことが、大分の元気につながるのではないかと思います。

また、小林(伸二)さん、シャムスカさん、田坂(和昭)さん、片野坂(知宏)さんは、トリニータからJクラブの監督としてのキャリアをスタートしました。また、現在宮崎の監督である石崎(信弘)さん、日本代表コーチの手倉森(誠)さんも若いころトリニータで指導していただいたということで、選手にとっても指導者にとってもトリニータで経験を積んでもらえるようなチームになりたいと思っております。

最後になりますが、西川周作選手や清武弘嗣選手が日本代表に選出されております。清武選手は10年前、西川選手は13年前にアカデミーにいた選手です。その他にもU-20日本代表の坂井(大将)選手や岩田(智輝)選手など多くの選手が日本代表、日本代表候補で活躍しております。こういったアカデミー出身選手が代表で活躍することが私どもの企業理念である「大分の活力に貢献する」ということに繋がっていると思いますので、こういった選手を一人でも多く輩出できるように頑張っていきたいと思っております。

フットボール事業本部強化部長 西山 哲平

【トップチームについて】

こんばんは。今シーズン強化部長を務めさせていただきます西山です。私の方からはトップチームに関することを説明いたします。

まず、トリニータの目指すサッカーから。これは昨シーズンからの継続ですが、まずは「アグレッシブ」これは攻守ともに共通です。次に「ハードワーク」走る、闘うということです。サッカーのベースである闘うところ、メンタルの部分や、ただ走るのではなく、賢く走るところであったり、攻守の切り替え、球際の激しさであったりという基本をもっともっと上げていきたいと思っております。それにプラスして「判断」、「予測」を大事にしていきたいと思っております。ピラミッドでたとえるとアグレッシブ、ハードワークがベースとなりその上に判断、予測がついてくる。とにかく戦う姿勢を前面に出しつつも判断、予測を大切にし、例えばボールを奪った瞬間に相手のDFが手薄であったら速く攻めるという判断、もし相手が低くブロックを作って守備を固めていれば、どこが空いているかを探す状況判断なども大事にしていきたいと思っております。

次に、今シーズンのチーム編成の狙いです。まずは昨シーズンの積み上げと昨シーズンの終盤戦のような戦いを継続させたいと思っておりましたので、それを体現できる選手を集めてきました。また、一体感を非常に大事にしておりましたので、今シーズンもそこを大事

にしていきたいと思います。獲得した選手の中にはアカデミーの選手が多く含まれていますが、こういった選手は一体感を出すという役割を担ってくれているのかなと思っています。

それでは具体的に選手の説明をします。

まず高木（駿）片野坂体制になってからキーパーを含めてボールを動かすことにも重点を置いておりますので、足元の優れたキーパーを必要として獲得しました。

黒木（恭平）に関しては左利きのサイドバックの必要性から獲得しました。

竹内（彬）はベテランで経験もありますし、昨年のセンターバックを務めた2名がまだまだ若いということもあり獲得しました。

岸田（翔平）はユースから大学へ進学、Jクラブを経由し戻ってくれた選手ですが、彼はサイドバックそして3 - 4 - 3であればウィングバックが出来るということで、この選手の加入によっていろいろなシステムを可能にしてくれると考えております。

坂井（達弥）は日本代表にも選ばれたポテンシャルを持っている選手で、彼も貴重な左利きのセンターバックです。

國分（伸太郎）はユースから大学を経由して加入した初めての選手です。クラブとして彼の復帰に喜びを感じています。

小手川（宏基）もユース出身の選手で、前線でアイデアを持っているので得点に絡んでくれる選手だと思います。

前田（凌佑）は技術がとても高く、なおかつディフェンス力のあるすぐれたボランチだと思っています。

鈴木（惇）はアビスパからレンタルでの加入です。展開力に優れた選手です。

野上（拓哉）はU - 18から昇格しましたが、左利きで非常にポテンシャルのある選手です。フィジカル的にはまだまだ弱い所がありますが、将来性のある選手だと思っています。

林（容平）ですが、説明の必要がないのかなと思うくらいみなさん認知があると思います。念願叶って獲得することが出来ました。彼のハードワークというのが私たちの目指すサッカーを体現してくれると思っています。

川西（翔太）はもともとFWの選手ですが、昨シーズンボランチを経験し様々なポジションが出来るポリバレンタな選手です。

このように獲得した選手はJ2というカテゴリーに上がった中でもしっかり戦うことができ、また複数のシステムに対応できる選手だと思っています。複数のポジションが出来る選手が多いことから同じシステムでもポジションをスライドしてプレーしてくれる、戦いの幅を広げてくれる選手を集めてきたつもりです。そして年齢のバランス的にもちょうど中堅どころで、しっかり試合に出てきた選手を獲得しました。

次に戦術のポイントになります。これは昨シーズンからの継続でいきます。コンセプト通りで、アグレッシブ、ハードワークにプラスして判断や予測をブラッシュアップしていきたいと思っています。そこで厚みのある攻撃や、推進力など相手の変化を見てどこをつく

かというところを突き詰めていきたいと思っています。

次にシステムですが、昨シーズン4 - 4 - 2を中心に戦っていましたが、今シーズン3 - 4 - 3で試すことも多くなっています。3 - 4 - 3の特徴としては、攻守に厚みを持たせることが出来るシステムだと思っています。ハードワークが出来ればそういったサッカーが可能になり、非常に面白いサッカーが表現できると思っています。最終的には一体感、ハードワーク、アグレッシブ、躍動感といったポイントになりますが、この点は映像を使って説明させていただきたいと思います。

~~~~映像~~~~

次にリスタートの映像になるのですが、こちらをお見せする理由といたしましては、昨年実施した非公開練習の結果、様々なサインプレーで得点することが出来たというところで、今シーズンも引き続き非公開練習をさせていただきたいと思いますので、ご理解いただければと思います。よろしくお祈いします。今シーズンはカテゴリーも上がりまして、苦しい戦いが続くと思いますが、皆様のご声援が本当に力になりますので何卒よろしくお祈いいたします。